



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月5日

上場会社名 株式会社ドリームインキュベータ 上場取引所 東
 コード番号 4310 URL <https://www.dreamincubator.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 原田 哲郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 上村 敏弘 TEL 03(5532)3200
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	8,983	12.7	352	—	421	605.5	728	—
2022年3月期第1四半期	7,974	31.3	△138	—	59	—	△21	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 1,139百万円 (—%) 2022年3月期第1四半期 39百万円 (△87.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	74.65	74.55
2022年3月期第1四半期	△2.22	—

(参考) 調整後経常利益 2023年3月期第1四半期 1,039百万円
 2022年3月期第1四半期 279百万円
 調整後親会社株主に帰属する四半期純利益 2023年3月期第1四半期 976百万円
 2022年3月期第1四半期 67百万円

(注) 当社は、当社の重要な連結子会社であるアイペット損害保険株式会社に関して、普通責任準備金を未経過保険料方式により算定し、異常危険準備金繰入額の影響を排除した利益（調整後利益）を、損益実態を把握する上で有用な指標としております。参考では、調整後利益に基づく連結業績を開示しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	33,884	13,671	32.1
2022年3月期	33,574	12,454	29.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 10,880百万円 2022年3月期 9,778百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	0.00	0.00	0.00	0.00	—
2023年3月期	0.00	—	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	0.00	0.00	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2023年3月期の期末配当予想につきましては、未定としております。

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社グループの事業は、ビジネスプロデュース事業及びインキュベーション事業から構成されております。ビジネスプロデュース事業は比較的将来の予測が立ちやすい一方、インキュベーション事業の一部につきましては売上高の多くが株式市場における株式売却によってもたらされることから、株式市況やIPO動向に伴って振幅します。従いまして、現時点において業績予想を合理的に行うことが困難であるため、開示を控えさせていただいております。

なお、現時点で将来の業績を予想するのに有用と思われる情報を、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しておりますので、ご参照下さい。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：無
（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	10,465,100株	2022年3月期末	10,454,500株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	705,419株	2022年3月期末	705,419株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	9,753,901株	2022年3月期1Q	9,670,078株

（注）当社は、「役員報酬BIP信託」及び「株式付与ESOP信託」を導入しております。BIP信託口及びESOP信託口が所有する当社株式は、自己株式に含めて記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等につきましては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・調整後利益に関する説明

損害保険会社は、保険業法施行規則第70条1項1号に基づき、未経過保険料残高と初年度収支残高の大きい方を責任準備金として負債計上し、当事業年度の残高と前事業年度の残高の差分を繰入額として当事業年度に費用計上します。

アイペット損害保険株式会社では、現状、財務会計上は初年度収支残高によっておりますが、当社ではアイペット損害保険株式会社の損益実態を把握する指標として未経過保険料方式による損益を重要視しております。その理由として、未経過保険料方式により算定された利益は、発生主義による利益と近似するため、期間比較が可能となり経営実態を適切に反映していると考えております。一方で、初年度収支残方式は、収支相当の原則に立脚しており、当事業年度に係る保険料から保険金、事業費を差し引いた残額が、翌事業年度以降の保険金支払い等の原資になるという考え方であり、初年度収支残方式により算出された利益は、発生主義による利益と必ずしもならないことから期間比較が出来ないと考えております。

また、上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社が限られているため、損害保険会社を企業集団にもつ競合他社との比較の観点からも、投資家が当社の業績を評価する上で有用な情報として未経過保険料方式により算定された利益が、投資家に有用と考えております。

異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、収入保険料の一定割合を每期積み立てる責任準備金の一形態であり、大蔵省告示第232号第2条の別表で記載されている損害率を超える場合に、その損害率を超える部分に相当する金額を取崩すこととされています。アイペット損害保険株式会社は損害率が基準よりも低いため、収入保険料に3.2%を乗じた金額を每期積み立てております。

そのため、アイペット損害保険株式会社について、未経過保険料方式に異常危険準備金を加味した利益が、アイペット損害保険株式会社の経営実態を把握する上で有用な指標と考えており、それを基礎とした連結業績（調整後利益）は、投資家が当社の業績を判断する上で有用な情報と考えております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 営業の状況	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(報告セグメントの変更等について)

当第1四半期連結会計期間において、連結子会社であった株式会社ワークスタイルラボ及びピークス株式会社の全株式を譲渡したため、「HRイノベーションセグメント」及び「ファンマーケティングセグメント」を報告セグメントから除外しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等) II 当第1四半期連結累計期間 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照下さい。

(1) 経営成績に関する説明

当社及び当社グループの当第1四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は8,983百万円(前年同四半期比12.7%増)、経常利益は421百万円(前年同四半期比605.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は728百万円(前年同四半期比は親会社に帰属する四半期純損失21百万円)となりました。

当第1四半期連結累計期間における報告セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

(ビジネスプロデュース事業)

ビジネスプロデュース事業では、主に大企業向けの事業創造支援や成長戦略立案支援に関する戦略コンサルティング、M&Aファイナンシャル・アドバイザーの提供、及び社会課題を解決するための新たな官民連携の仕組みであるソーシャルインパクトボンド(SIB)を活用したファンド運営をしております。

顧客の事業創造ニーズの高まりに加え、積極的なマーケティング活動に取り組んだ結果、新規プロジェクトの受注高は前第4四半期連結会計期間に引き続き好調に推移しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は861百万円(前年同四半期は614百万円)、セグメント利益(営業利益)は368百万円(前年同四半期はセグメント利益(営業利益)241百万円)となりました。

(インキュベーション事業)

インキュベーション事業は、ベンチャー投資セグメント、ペットライフスタイルセグメントにより構成されております。

ベンチャー投資セグメントにおいては、スタートアップ企業等への投資育成を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、複数件のトレードセールによるキャピタルゲイン等を実現いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は203百万円(前年同四半期は33百万円)、セグメント利益(営業利益)は80百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)115百万円)となりました。

ペットライフスタイルセグメントとは、連結子会社アイペットホールディングス株式会社の中核子会社であるアイペット損害保険株式会社が運営するペット向け医療保険等を指します。当第1四半期連結累計期間において、売上面では、アイペット損害保険株式会社の新規契約件数が堅調なペット需要を背景に順調に推移したことにより、拡大傾向が続いております。費用面では、保険契約の伸展に伴い、諸手数料及び集金費、ならびに正味支払保険金や損害調査費が増加いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,918百万円(前年同四半期は6,639百万円)、セグメント利益(営業利益)は139百万円(前年同四半期はセグメント利益(営業利益)74百万円)となりました。

なお、アイペット損害保険株式会社の損益実態を把握する上で有用な指標である調整後利益では、セグメント利益(営業利益)756百万円となっております。

以上の当社及び当社グループの売上をまとめると以下のとおりです。

区分	第22期 第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		第23期 第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
ビジネスプロデュース事業 (セグメント)	614	7.7	861	9.6
インキュベーション事業	7,364	92.4	8,121	90.4
(内訳)				
ベンチャー投資セグメント	33	0.4	203	2.3
ペットライフスタイルセグメント	6,639	83.3	7,918	88.1
HRイノベーションセグメント	288	3.6	—	—
ファンマーケティングセグメント	401	5.1	—	—
セグメント間の内部売上高又は振替高	△5	△0.1	—	—
合計	7,974	100.0	8,983	100.0

(参考) 当社は、当社の重要な連結子会社であるアイペット損害保険株式会社に関して、損益実態を把握する上で有用な指標として以下の調整を加味した利益を開示しております。

- ①普通責任準備金：当該金額の算定を初年度取支残方式から未經過保険料方式に変更
- ②異常危険準備金：繰入額の影響を排除

財務会計ベースのペットライフスタイルセグメント損益から調整後利益ベースのペットライフスタイルセグメント損益へ調整及び、調整後利益ベースでの連結業績は以下のとおりです。

(単位:百万円)

	第22期 第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	第23期 第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
財務会計ベースのペットライフスタイルセグメント 損益	74	139
①に関する調整額	15	372
②に関する調整額(注)	204	244
調整後ペットライフスタイルセグメント損益	294	756
調整後連結経常利益	279	1,039
調整後親会社株主に帰属する四半期純利益	67	976

(注) 戻入の場合はマイナスとなります。

(2) 財政状態に関する説明

連結貸借対照表

当第1四半期連結会計期末における資産は33,884百万円（前連結会計年度末比309百万円増）、負債は20,213百万円（同906百万円減）、純資産は13,671百万円（同1,216百万円増）となっております。

前連結会計年度末比での資産の増加の主な理由は、アイペット損害保険株式会社による運用資産取得に伴う有価証券の増加等が挙げられます。

負債の減少の主な理由は、返済による短期借入金及び長期借入金の減少等が挙げられます。

純資産の増加の主な理由は、親会社株主に帰属する四半期純利益の積み上がりによる利益剰余金の増加等が挙げられます。

なお、以上の状況に加え、当社の財政状態を示す有用な指標として、投資先含み益の状況を決算補足説明資料に開示しておりますので、あわせてご参照下さい。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

(ビジネスプロデュース事業)

新規プロジェクトの受注は前期に引き続き好調に推移しており、2023年3月期の通期売上高は、3,300百万円（前期比16%増）を計画しております。利益面では、当第1四半期連結会計期間は人員増以上に売上が大きく、利益計上が先行しましたが、人材増強等への積極的な投資は今後も継続することから、2023年3月期の営業利益は前期と同程度を見込んでおります。それ以降は利益も追従する形で回復させ、中長期で強固な安定収益基盤を確立させてまいります。

(インキュベーション事業)

ペットライフスタイルセグメントは、引き続き拡大傾向にあるペット保険市場を背景として継続的な売上高の成長を見込んでおります。利益面では、長期的にコンバインド・レシオを低下させることを目的としたシステム開発の推進等に伴う事業費の増加により、アイペットホールディングス株式会社としての2023年3月期の調整後経常利益は1,070百万円（前期比40.7%減）を見込んでおります。その他詳細につきましてはアイペットホールディングス株式会社が開示しております決算短信の業績予想及び関連開示資料をご参照下さい。

ベンチャー投資セグメントは、業績が株式市況やIPO動向に伴い振幅することから、見通しは立てにくい状況が続くものと考えております。現段階において、当連結会計年度にIPO又はトレードセールによる複数の回収を見込んでおりますが、株式市況の悪化等に伴い、IPOの延期や売上の不成立といったリスクが見込まれます。また、市況が長期的に低迷する等の状況に陥った場合は、キャピタルゲインの低下や投資先の引当が拡大するリスクが見込まれます。

(4) 営業の状況

(生産実績)

当社及び当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

(受注実績)

当第1四半期連結累計期間における受注実績は次のとおりであります。

なお、ベンチャー投資セグメントにつきましては、受注という概念がございませんので記載しておりません。

区分	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	前年同四半期比 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
ビジネスプロデュース事業 (セグメント)	952	946	△0.6
インキュベーション事業	7,365	7,906	7.3
(内訳)			
ペットライフスタイルセグメント	6,639	7,906	19.1
HRイノベーションセグメント	324	—	—
ファンマーケティングセグメント	401	—	—
合計	8,318	8,853	6.4

(注) 各セグメントの金額は、セグメント間の取引を含んでおります。

(販売実績)

当第1四半期連結累計期間における販売実績は次のとおりであります。

区分	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	
	金額 (百万円)	前年同四半期比 (%)
ビジネスプロデュース事業 (セグメント)	861	40.1
インキュベーション事業	8,121	10.3
(内訳)		
ベンチャー投資セグメント	203	504.3
ペットライフスタイルセグメント	7,918	19.3
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
合計	8,983	12.7

(投資実績)

証券種類	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)				当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)			
	投資実行高		期末投資残高		投資実行高		期末投資残高	
	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)
株式・出資金等	1,136	22	6,033	66	171	3	6,200	65
新株予約権等	30	1	—	5	—	—	—	5
合計	1,166	23	6,033	69	171	3	6,200	68

- (注) 1 新株予約権等は、当社コンサルティングサービスの対価として発行会社から無償で取得している場合がありますが、上表においては、その際の金額をゼロとし会社数のみを記載しております。
- 2 株式、新株予約権等を重複して投資を行っている会社があります。
- 3 時価のあるものについては、取得原価を記載しております。
- 4 上表には余剰資金の運用目的の有価証券及び投資有価証券は含まれておりません。
- 5 当社グループは、未公開時点では投資をしていなかったPost-IPO企業の株式をIPO後に取得する場合がありますが、上表には当該投資金額及び会社数は含まれておりません。
- 6 期末において保有している新株予約権等を全て行使した場合の株式取得価額の総額は、以下のとおりであります。

前連結会計年度	当第1四半期連結会計期間
98百万円	98百万円

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,933	12,485
受取手形、売掛金及び契約資産	5,325	4,468
営業投資有価証券	6,530	7,033
有価証券	2,767	3,751
投資損失引当金	△357	△357
棚卸資産	87	21
その他	740	1,335
貸倒引当金	△26	△26
流動資産合計	28,001	28,712
固定資産		
有形固定資産	916	892
無形固定資産		
のれん	814	442
その他	982	758
無形固定資産合計	1,796	1,200
投資その他の資産		
投資有価証券	354	354
繰延税金資産	2,015	2,188
その他	489	536
投資その他の資産合計	2,859	3,079
固定資産合計	5,572	5,172
資産合計	33,574	33,884

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	554	3
短期借入金	1,100	100
1年内返済予定の長期借入金	395	300
保険契約準備金	14,594	15,533
支払備金	2,075	2,189
責任準備金	12,519	13,344
未払法人税等	231	342
株主優待引当金	23	8
賞与引当金	283	384
その他	1,833	1,828
流動負債合計	19,017	18,501
固定負債		
長期借入金	1,648	1,050
繰延税金負債	81	257
株式給付引当金	313	345
その他	59	57
固定負債合計	2,101	1,711
負債合計	21,119	20,213
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,014	5,019
資本剰余金	4,458	4,461
利益剰余金	942	1,670
自己株式	△1,099	△1,099
株主資本合計	9,316	10,052
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	523	858
為替換算調整勘定	△61	△30
その他の包括利益累計額合計	462	827
新株予約権	3	—
非支配株主持分	2,672	2,790
純資産合計	12,454	13,671
負債純資産合計	33,574	33,884

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	7,974	8,983
売上原価	4,547	5,031
売上総利益	3,427	3,951
販売費及び一般管理費	3,565	3,599
営業利益又は営業損失(△)	△138	352
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	1	—
投資有価証券売却益	186	—
固定資産売却益	—	30
為替差益	—	39
その他	12	5
営業外収益合計	205	80
営業外費用		
支払利息	2	3
為替差損	1	—
固定資産除却損	0	4
価格変動準備金繰入額	1	0
その他	1	1
営業外費用合計	6	10
経常利益	59	421
特別利益		
関係会社株式売却益	—	546
特別利益合計	—	546
税金等調整前四半期純利益	59	968
法人税、住民税及び事業税	51	279
法人税等調整額	24	△76
法人税等合計	76	203
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△16	765
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	37
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△21	728

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△16	765
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	58	342
為替換算調整勘定	△2	31
その他の包括利益合計	56	374
四半期包括利益	39	1,139
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	27	1,093
非支配株主に係る四半期包括利益	12	46

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、時価算定会計基準適用指針の適用による、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ビジネス プロデュース セグメント	ベンチャー投資 セグメント	ペット ライフスタイル セグメント	HR イノベーション セグメント	ファン マーケティング セグメント	計			
売上高									
外部顧客への 売上高	614	28	6,639	288	401	7,974	7,974	—	7,974
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	5	—	—	—	5	5	△5	—
計	614	33	6,639	288	401	7,979	7,979	△5	7,974
セグメント利益 又は損失 (△)	241	△115	74	△27	△109	63	63	△202	△138

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△202百万円は各セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社での営業活動に関わる費用及び一般管理費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ビジネス プロデュース セグメント	ベンチャー投資 セグメント	ペット ライフスタイル セグメント	計			
売上高							
外部顧客への売上高	861	203	7,918	8,983	8,983	—	8,983
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	861	203	7,918	8,983	8,983	—	8,983
セグメント利益又は損失 (△)	368	80	139	588	588	△235	352

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△235百万円は各セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社での営業活動に関わる費用及び一般管理費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は2022年6月に連結子会社の株式会社ワークスタイルラボの全株式を譲渡し、連結の範囲から除外しております。これに伴い、当第1四半期連結会計期間より「HRイノベーションセグメント」を報告セグメントから除外しております。また、当社は2022年4月に連結子会社のピークス株式会社の全株式を譲渡し、連結の範囲から除外しております。これに伴い、当第1四半期連結会計期間より「ファンマーケティングセグメント」を報告セグメントから除外しております。